

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第1区分
【発行日】平成17年5月19日(2005.5.19)

【公開番号】特開2001-37454(P2001-37454A)
【公開日】平成13年2月13日(2001.2.13)
【出願番号】特願平11-218079
【国際特許分類第7版】
A 2 3 L 1/48
A 2 3 L 1/30
【F I】
A 2 3 L 1/48
A 2 3 L 1/30 B

【手続補正書】
【提出日】平成16年7月20日(2004.7.20)
【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】

【請求項1】

藻類をオゾン水により洗浄し乾燥させた後、大気圧 $\sim 10\text{ Kg/cm}^2$ 下、品温 $100\sim 220$ で加熱処理することを特徴とする減臭藻類の製造方法。

【請求項2】

オゾン水中のオゾン濃度が $1\sim 10\text{ ppm}$ である請求項1記載の減臭藻類の製造方法。

【請求項3】

加熱処理を大気圧 $\sim 5\text{ Kg/cm}^2$ 下、品温が $120\sim 180$ となるように行う請求項2記載の減臭藻類の製造方法。

【請求項4】

加熱処理を連続攪拌押出し加熱装置を用いて行う請求項2記載の減臭藻類の製造方法。

【請求項5】

藻類がスピルリナ又はクロレラである請求項1～4のいずれか1項記載の減臭藻類の製造方法。

【請求項6】

藻類をオゾン水により洗浄した湿藻体又はスラリーを、大気圧 $\sim 4\text{ Kg/cm}^2$ 下、品温 $80\sim 130$ で加熱処理した後、乾燥することを特徴とする減臭藻類の製造方法。

【請求項7】

オゾン水中のオゾン濃度が $1\sim 10\text{ ppm}$ である請求項6記載の減臭藻類の製造方法。

【請求項8】

加熱処理を $2\sim 3\text{ Kg/cm}^2$ 下、品温 $110\sim 120$ で行う請求項7記載の減臭藻類の製造方法。

【請求項9】

加熱処理を内部混合機を有するチューブ式連続加熱装置を用いて行う請求項7記載の減臭藻類の製造方法。

【請求項10】

前記藻類がスピルリナ又はクロレラである請求項6～10のいずれか1項記載の減臭藻類の製造方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

【課題を解決するための手段】

本発明者は、上記課題に関し研究した結果、藻類を洗浄し、噴霧乾燥後、加熱装置により加熱処理するか、若しくは藻類を洗浄し、加熱装置により加熱処理後、噴霧乾燥することにより、藻類を膨化させることなく、藻類自身の臭気を低減することを見いだし本発明を完成するに至った。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

即ち、本発明は、藻類をオゾン水により洗浄し乾燥させた後、大気圧 $\sim 10\text{ Kg/cm}^2$ 下、品温 $100\sim 220$ で加熱処理することを特徴とする減臭藻類の製造方法を提供するものである。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

また、本発明は、藻類をオゾン水により洗浄した湿藻体又はスラリーを、大気圧 $\sim 4\text{ Kg/cm}^2$ 下、品温 $80\sim 130$ で加熱処理した後、乾燥することを特徴とする減臭藻類の製造方法を提供するものである。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】削除

【補正の内容】